

# 2020年度 第1四半期 決算概要

## I. 2020年度 第1四半期 連結業績概要

## II. 2020年度 連結業績予想

## III. 補足資料

シャープ株式会社

2020年8月5日

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

# I . 2020年度 第1四半期 連結業績概要

**SHARP**

1

- ・ 本日はご多忙な中、ご参加頂きありがとうございます。  
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、パワーポイント資料に沿って、ご説明いたします。

## 2020年度 第1四半期 連結業績概要(1)

- ・ 新型コロナウイルスに関して、販売面での影響はあったものの、中国の生産拠点をはじめ、サプライチェーンは概ね正常化
- ・ 2020年度 第1四半期の売上・利益は、2019年度 第4四半期を上回り、最終損益が黒字化
- ・ 販売面でのコロナ影響が大きかったビジネスソリューションを除き、各事業の業績は着実に回復

**SHARP**

2

- ・ まず、2020年度 第1四半期の連結業績の概要です。
- ・ 新型コロナウイルスに関しましては、販売面での影響はあったものの、中国の生産拠点をはじめ、サプライチェーンは、早い段階で概ね正常化しておりました。
- ・ その結果、前回決算発表でお話しさせていただきました通り、2020年度 第1四半期の売上と利益は、2019年度 第4四半期から回復し、最終損益を黒字化することができました。
- ・ ビジネスソリューションは、オフィス閉鎖が続いた影響で、商談や機器の設置が進まなかったことに加え、プリントボリュームも低下したため、本体・サプライともに落ち込みましたが、それ以外の各事業の業績は、着実に回復しております。

# 2020年度 第1四半期 連結業績概要(2)

(単位:十億円)

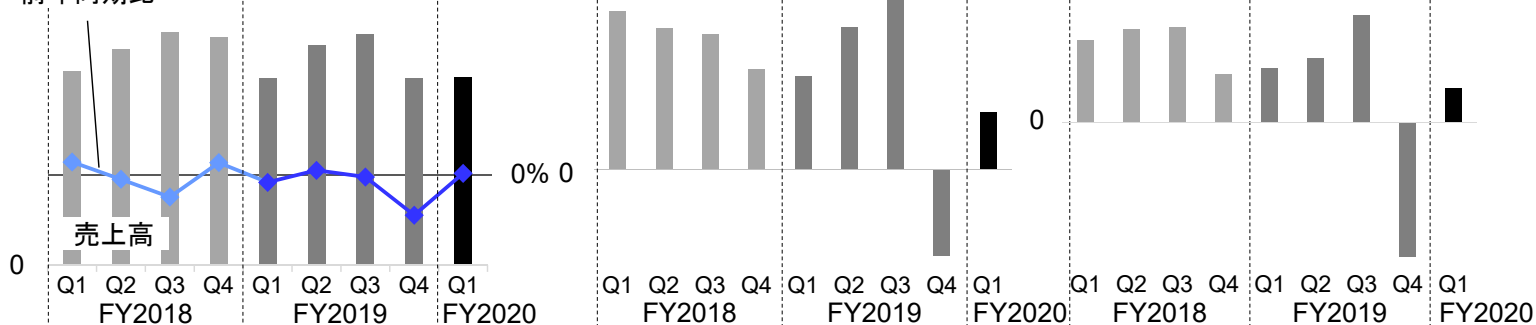
	2019年度				2020年度		コロナ 影響
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	前同比	
売上高	514.9	605.6	634.9	515.6	517.2	+0.4%	-59.0
営業利益	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	29.4 (4.6%)	-13.6 (-2.6%)	9.0 (1.8%)	-37.8%	-16.0
経常利益	13.9 (2.7%)	19.1 (3.2%)	31.0 (4.9%)	-8.5 (-1.7%)	7.7 (1.5%)	-44.1%	-16.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12.5 (2.4%)	14.8 (2.5%)	25.0 (3.9%)	-31.4 (-6.1%)	7.9 (1.5%)	-36.6%	-16.0
平均為替レート							
ドル円	108.90	106.35	107.76	107.94	106.62		
ユーロ円	121.99	117.84	118.82	118.62	116.97		

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比



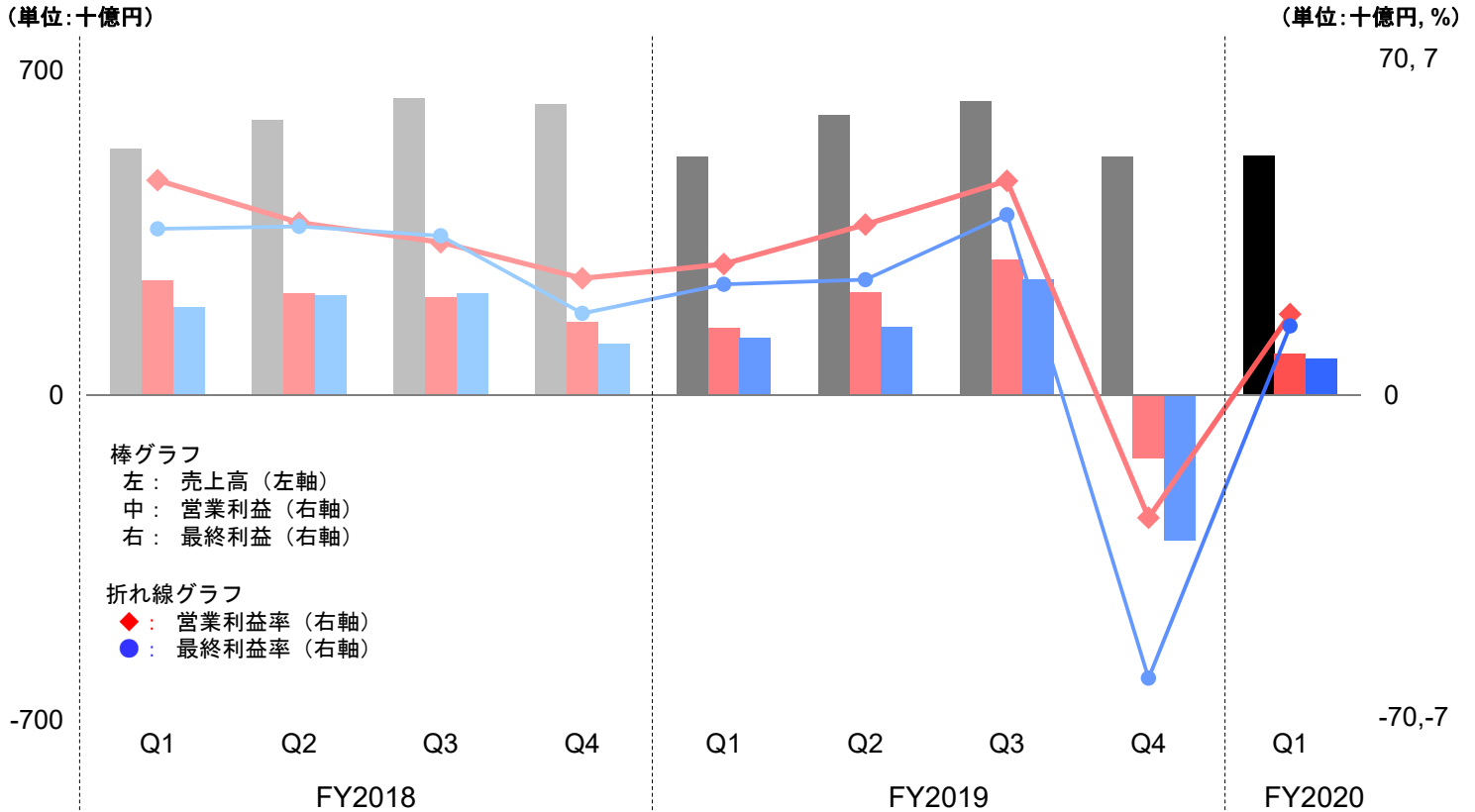
SHARP

3

- ・ 続いては、2020年度 第1四半期の業績数値です。
- ・ 売上高は、5,172億円となりました。
- ・ 損益につきましては、  
営業利益が 90億円、  
経常利益が 77億円、  
親会社株主に帰属する四半期純利益が、79億円となりました。
- ・ なお、新型コロナウイルスによる影響は、  
売上高に約590億円、営業利益に約160億円ありました。

# 2020年度 第1四半期 連結業績概要(3)

・2020年度 第1四半期は、2019年度 第4四半期から回復、営業利益・最終利益は黒字化



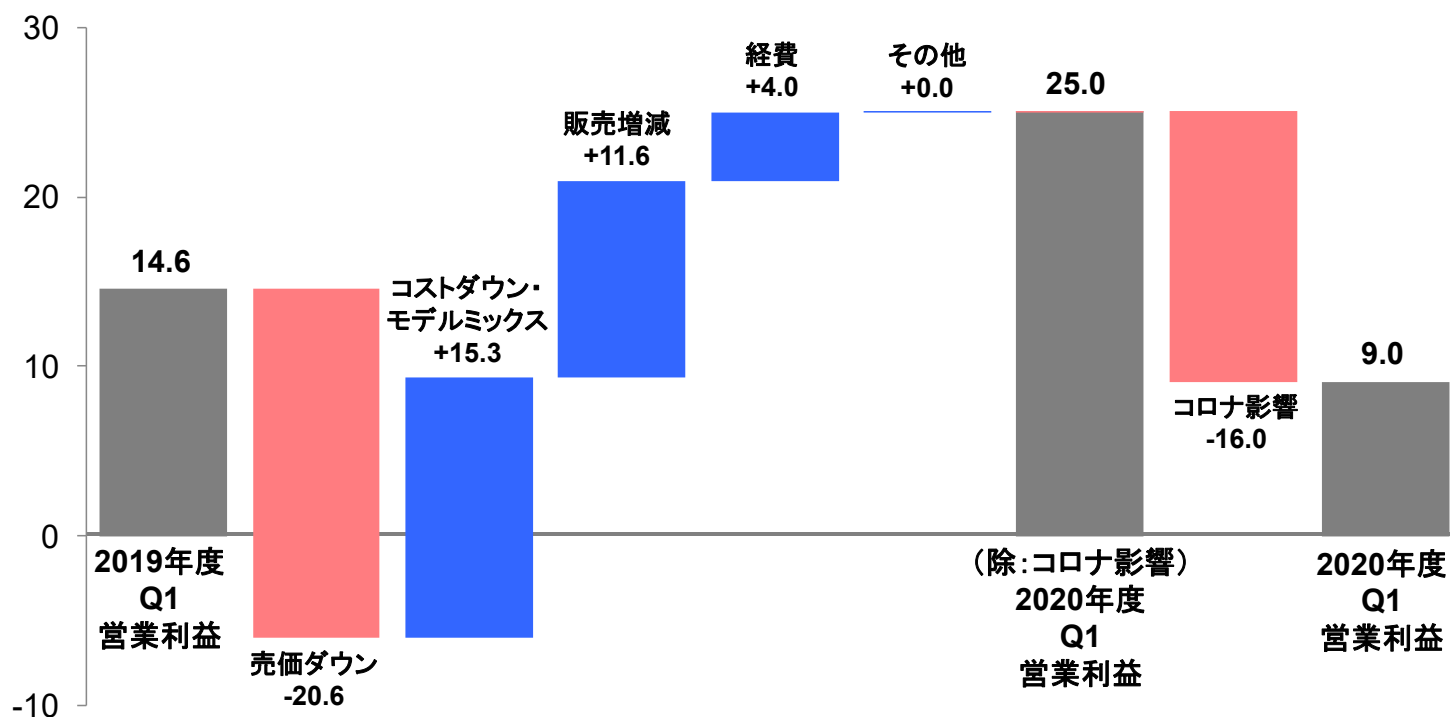
**SHARP**

4

- ・ 次のスライドは、四半期毎の業績の推移になります。
- ・ ご覧のように  
 2020年度 第1四半期は、売上・利益とも、2019年度 第4四半期を上回り、  
 営業損益・最終損益は黒字化しております。

# 2020年度 第1四半期 営業利益 要因別増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



**SHARP**

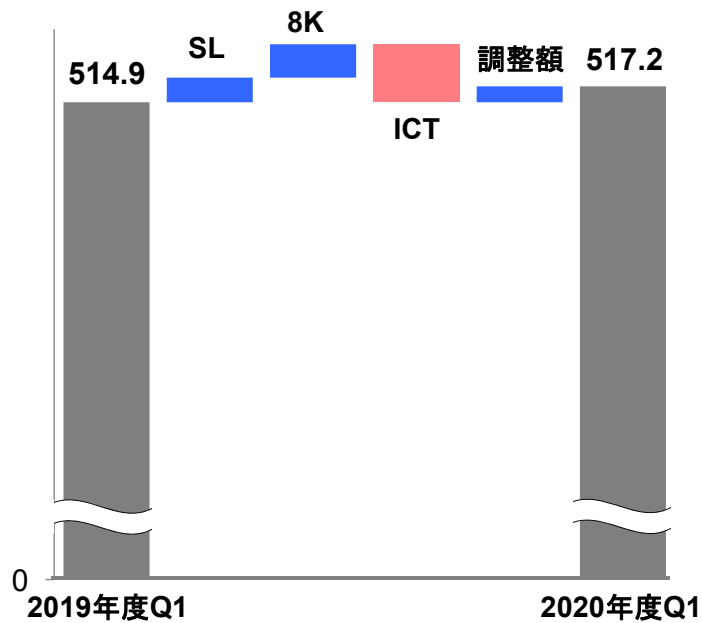
5

- ・ 次のグラフは、2020年度 第1四半期の営業利益の前年同期に対する増減を要因別にまとめたものです。
- ・ 2020年度の第1四半期は、ご覧のように、新型コロナウイルスの流行による約160億円の利益影響がありました。
- ・ この特殊要因を除くと、「売価ダウン」による206億円の収益の減少、「コストダウン・モデルミックス」による153億円の収益の改善、「販売増減」による116億円の利益の増加、「経費」の削減による40億円の収支影響などがありました。

# 2020年度 第1四半期 セグメント別増減分析(対前年同期)

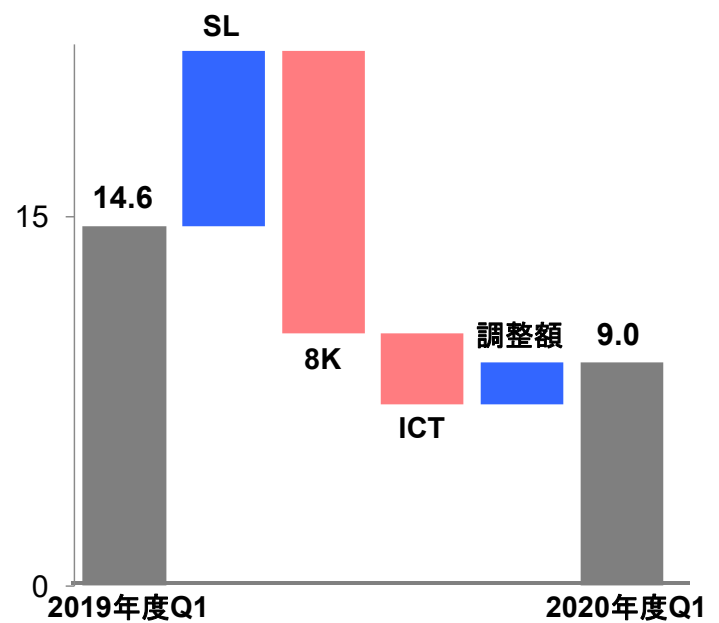
売上高

(単位:十億円)



営業利益

(単位:十億円)



SL :スマートライフ

8K :8Kエコシステム

ICT :ICT

**SHARP**

6

- 次のスライドは、前年同期からの売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめております。

- 売上高につきましては、スマートライフと8Kエコシステムが増加し、ICTが減少しました。

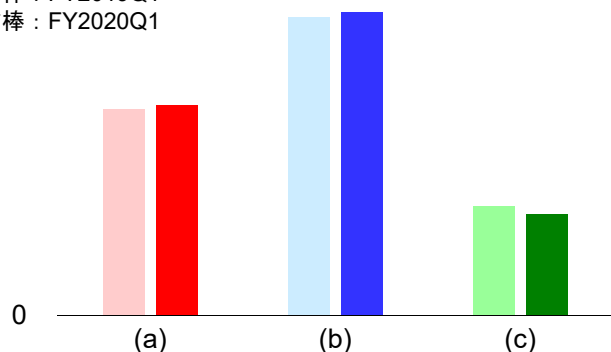
営業利益につきましては、スマートライフが増益となり、8KエコシステムとICTが減益となりました。

# セグメント別売上高

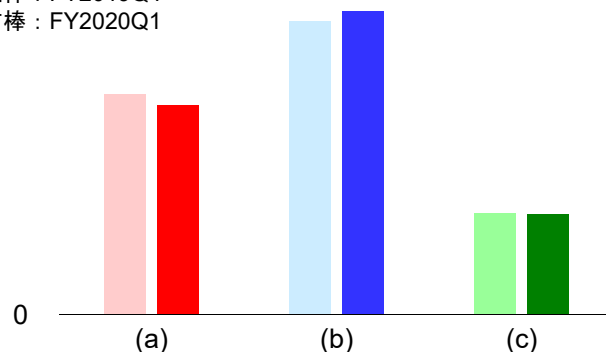
(単位:十億円)

	2019年度				2020年度		コロナ影響
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	前同比	
(a) スマートライフ	181.0	233.9	247.6	193.9	184.5	+1.9%	-19.0
(b) 8Kエコシステム	262.5	311.8	324.3	258.4	267.1	+1.7%	-42.0
(c) ICT	96.2	83.1	88.3	89.4	88.3	-8.2%	+2.0
小計	539.8	628.9	660.3	541.8	539.9	+0.0%	
調整額	-24.8	-23.3	-25.4	-26.1	-22.7	-	
合計	514.9	605.6	634.9	515.6	517.2	+0.4%	-59.0

左棒: FY2019Q1  
右棒: FY2020Q1



左棒: FY2019Q4  
右棒: FY2020Q1



**SHARP**

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

7

- ・ 次のスライドは、セグメント別 売上高の一覧です。
- ・ スマートライフの売上高は、前年同期比 1.9%増の 1,845億円となりました。ASEANの白物家電などが新型コロナウイルスの影響を受け、減収となりましたが、デバイス事業などが増収となりました。
- ・ 8K エコシステムは、1.7%増の 2,671億円となりました。ビジネスソリューションは、オフィス閉鎖により、商談や機器の設置が進まなかったことに加え、プリントボリュームも低下したため、本体・サプライともに売上が大きく落ち込みました。完成品のテレビは、国内では増収となったものの、中国などで減収となりました。ディスプレイデバイスでは、車載向けが減少した一方、PC・タブレット向けやスマートフォン向けの販売が増加しました。
- ・ ICTは、通信が、新製品発売時期の違いもあり、前年同期を下回ったことなどから、8.2%減の 883億円となりました。

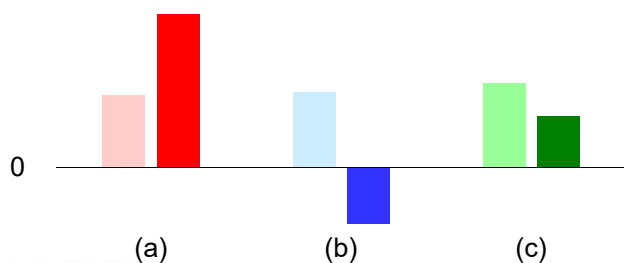


# セグメント別営業利益

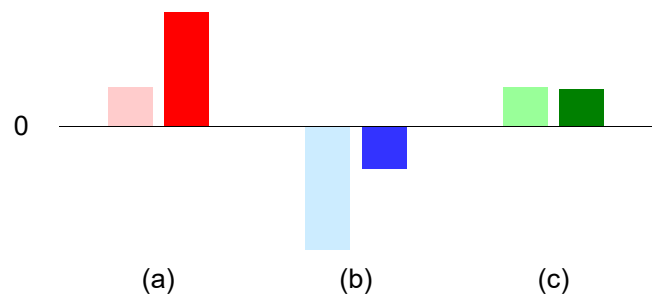
※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2019年度				2020年度		コロナ影響
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	前同比	
(a) スマートライフ	6.2 (3.5%)	12.3 (5.3%)	16.4 (6.7%)	4.6 (2.4%)	13.4 (7.3%)	2.1倍	-3.0
(b) 8Kエコシステム	6.5 (2.5%)	11.0 (3.5%)	11.7 (3.6%)	-14.4 (-5.6%)	-4.9 (-1.9%)	-	-14.0
(c) ICT	7.3 (7.6%)	3.7 (4.5%)	4.4 (5.1%)	4.5 (5.1%)	4.4 (5.0%)	-39.4%	+1.0
小計	20.1 (3.7%)	27.2 (4.3%)	32.7 (5.0%)	-5.1 (-1.0%)	12.9 (2.4%)	-36.0%	
調整額	-5.5	-4.8	-3.2	-8.4	-3.8	-	
合計	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	29.4 (4.6%)	-13.6 (-2.6%)	9.0 (1.8%)	-37.8%	-16.0

左棒: FY2019Q1  
右棒: FY2020Q1



左棒: FY2019Q4  
右棒: FY2020Q1



SHARP

8

- ・ 続いては、セグメント別 営業利益の一覧になります。
- ・ スマートライフの営業利益は、前年同期比 2.1倍の 134億円となりました。これは、販売の増加に加え、原価力向上に努めたことなどによるものです。
- ・ 8K エコシステムは、49億円の赤字となりました。ビジネスソリューションで、オフィス閉鎖によるプリントボリュームの低下に伴いサプライ販売が減少したこと、ディスプレイデバイスで車載向けが減収となったことなどにより、プロダクトミックスが悪化しました。
- ・ ICTは、39.4%減の 44億円となりました。売上の減少に伴い 減益となったものの、通信事業、Dynabook株式会社とも、引き続き、収益を計上しております。

# 営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2019年度				2020年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	前同 増減額
営業利益	14.6	22.3	29.4	-13.6	9.0	-5.6
営業外損益	-0.6	-3.1	+1.5	+5.0	-1.2	-0.6
内:支払利息	-1.2	-1.0	-1.3	-1.0	-1.2	0.0
為替差損益	+0.1	-0.7	+1.7	+1.8	+2.2	+2.1
持分法による投資損益	-0.9	-1.6	-0.7	-0.5	-0.6	+0.3
経常利益	13.9	19.1	31.0	-8.5	7.7	-6.2
特別損益	+0.0	+0.1	+0.2	-17.6	+2.5	+2.5
内:投資有価証券評価損	-	-	-	-16.1	-	-
税前利益	13.9	19.3	31.3	-26.2	10.3	-3.6
法人税等 他	-1.4	-4.4	-6.2	-5.2	-2.4	-1.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12.5	14.8	25.0	-31.4	7.9	-4.6

**SHARP**

9

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ ご覧のように、2020年度 第1四半期には、大きな「営業外損益」「特別損益」はありませんでした。

# 連結貸借対照表推移

- ・現預金は、3月末の2,250億円に対し、2,361億円に
- ・純資産は 2,979億円に増加し、自己資本比率は 15.2%に上昇

(単位:十億円)

	2019年度		2020年度		2019年度		2020年度
	12月末	3月末	6月末		12月末	3月末	6月末
現預金	215.9	225.0	236.1	支払手形・買掛金	392.7	349.2	335.3
受取手形・売掛金	511.9	429.1	414.7	短期借入金	237.0	237.7	285.9
たな卸資産	298.3	294.7	301.4	1年内社債	0.0	0.0	0.0
その他	128.2	139.6	147.7	その他	291.6	274.0	245.7
<b>流動資産計</b>	<b>1,154.4</b>	<b>1,088.6</b>	<b>1,100.0</b>	<b>流動負債計</b>	<b>921.4</b>	<b>861.0</b>	<b>867.0</b>
有形固定資産	423.1	410.7	406.4	社債	0.0	0.0	0.0
無形固定資産	44.6	45.5	45.8	長期借入金	539.0	538.7	536.8
投資その他資産	308.3	287.4	285.6	その他	134.2	137.4	136.1
<b>固定資産計</b>	<b>776.0</b>	<b>743.7</b>	<b>737.9</b>	<b>固定負債計</b>	<b>673.3</b>	<b>676.1</b>	<b>672.9</b>
繰延資産	0.0	0.0	0.0	<b>純資産</b>	<b>335.7</b>	<b>295.1</b>	<b>297.9</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,930.4</b>	<b>1,832.3</b>	<b>1,837.9</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,930.4</b>	<b>1,832.3</b>	<b>1,837.9</b>
期末日レート							
ドル円	108.55	107.83	106.74	自己資本比率	16.3%	15.0%	15.2%
ユーロ円	121.01	118.15	119.55	自己資本	313.7	275.3	278.9

**SHARP**

10

- ・ 続いては、貸借対照表の推移です。
- ・ 6月末の「現預金」は、事業環境を鑑み、手元流動性を確保したこともあり、3月末の2,250億円に対し、2,361億円に増加しております。

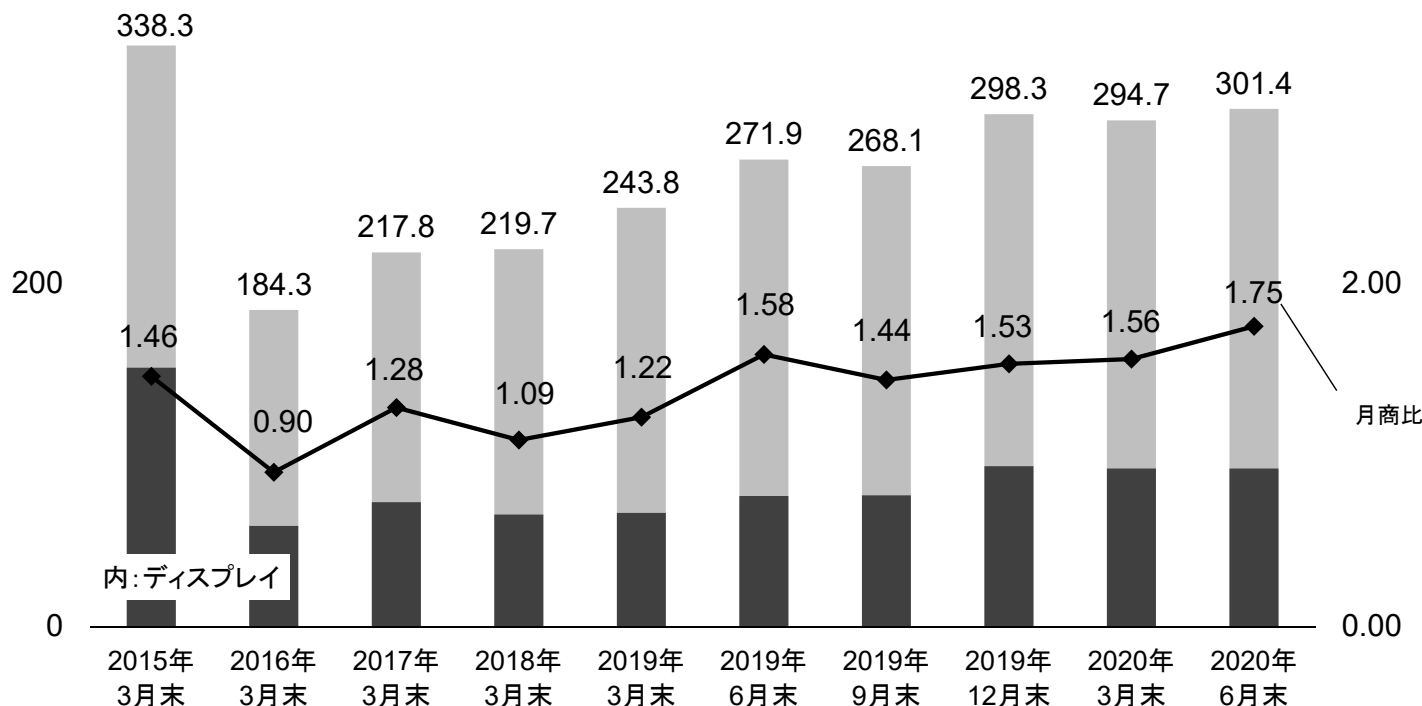
また、業績の回復に伴い、「純資産」は 2,979億円に増加し、「自己資本比率」も 15.2%に上昇しております。

# たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2020年3月末の2,947億円に対し、3,014億円に
- ・今後の販売計画等を勘案した在庫水準

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



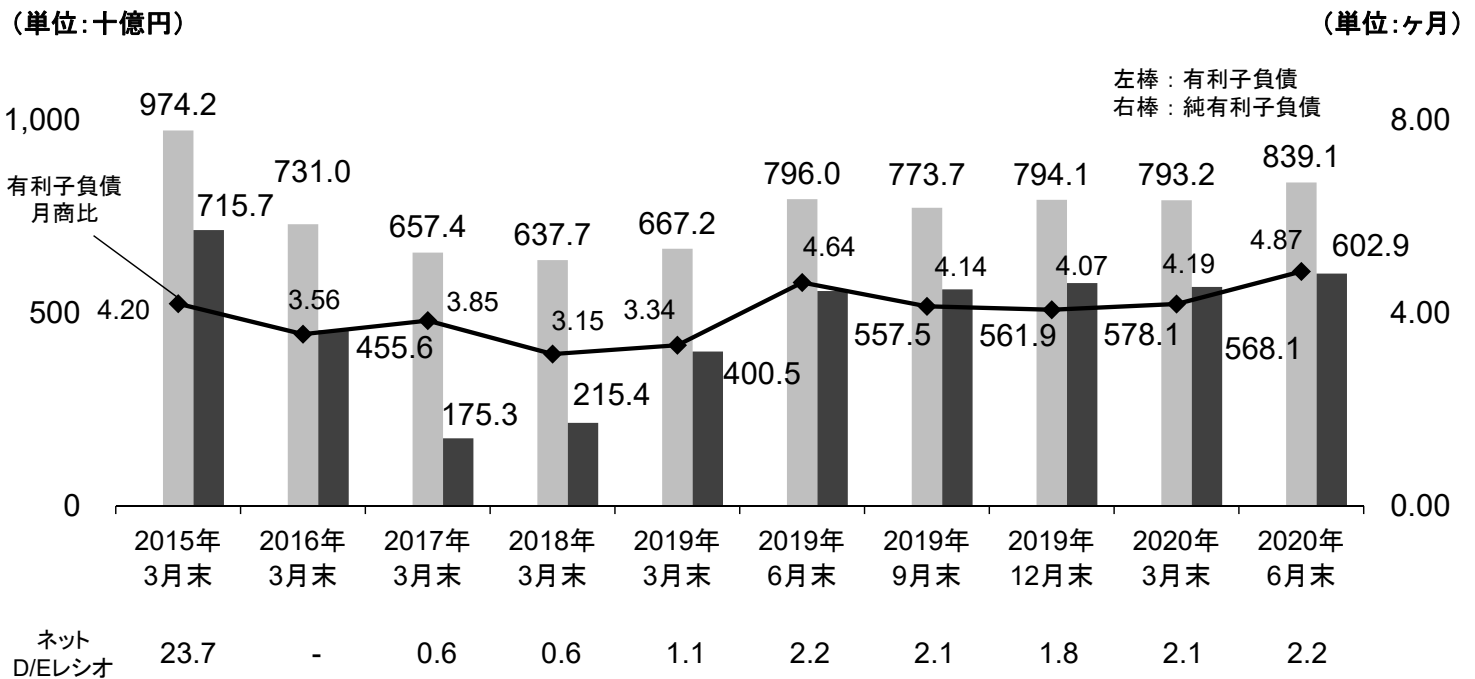
SHARP

11

- ・ 次のスライドをご覧ください。「たな卸資産」の推移になります。
- ・ 2020年度 第1四半期末の「たな卸資産」は、2019年度末の 2,947億円から 3,014億円となり、月商比は、0.19ヶ月増の 1.75ヶ月となっております。
- ・ やや増加はしておりますが、第2四半期以降の商材確保など、季節要因によるもので、販売見込みを勘案した在庫水準となっております。
- ・ 新型コロナウイルスや米中貿易摩擦の動向、それに伴うデバイス顧客の需要動向など、事業環境の変化をさらに注視し、適正な在庫水準の維持に努めてまいります。

# 有利子負債の推移

- ・有利子負債は、2020年3月末の7,932億円に対し、8,391億円に  
月商比は、4.19ヶ月に対し、4.87ヶ月に
- ・純有利子負債※は、3月末の5,681億円に対し、6,029億円になる



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

**SHARP**

12

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
  - ・ 2020年度 第1四半期末の有利子負債は、  
2019年度末の 7,932億円に対し、8,391億円となりました。
- 純有利子負債は、  
2019年度末の 5,681億円に対し、6,029億円となっております。
- ・ 今後とも、在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、  
キャッシュフローの改善を図ります。

## Ⅱ．2020年度 連結業績予想

- ・ 次は、2020年度の業績予想です。

## 2020年度 通期 連結業績予想(1)

- 2020年度は、新たな事業推進体制のもと、新型コロナウイルスや米中貿易摩擦による 事業環境の変化 への 対応 と 次期中期経営計画 に向けた 基盤固め に注力
- 業績予想は、各国で 経済活動 が段階的に 正常化 していくことを 前提 としたものの
- 当社の サプライチェーン は概ね 正常化、販売面での制約が緩和されれば、本業 は 回復 する見込み
- 引き続き、財務体質の改善 も進める

**SHARP**

14

- 次のスライドをご覧ください。
- 2019年度が 前回の中期経営計画の最終年度であることから、本来、2020年度は、新たな中期経営計画がスタートする年度でした。  
しかしながら、新型コロナウイルスの流行や これに伴う米中貿易摩擦により事業環境が大きく変化したため、新たな事業推進体制のもと、その対応と次期中期経営計画に向けた基盤固めに注力することといたしました。
- 業績予想については、新型コロナウイルスの収束時期を見極めることが困難であるため、各国で経済活動の正常化が段階的に進んでいくとの前提を置いて策定しております。
- 当社のサプライチェーンは、概ね正常化していることから、販売面での制約が緩和されていけば、本業は回復していく見込みです。
- また、引き続き、財務体質の改善も進めてまいります。

## 2020年度 通期 連結業績予想(2)

(単位:十億円)

	2019年度	2020年度		コロナ 影響
	通期	通期予想	前年比	
売上高	2,271.2	2,350.0	+3.5%	-96.0
営業利益 (利益率)	52.7 (2.3%)	82.0 (3.5%)	+55.4%	-28.0
経常利益 (利益率)	55.5 (2.4%)	70.0 (3.0%)	+26.0%	-28.0
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	20.9 (0.9%)	50.0 (2.1%)	2.4倍	-28.0
平均為替レート				
ドル円	107.74	105.00		
ユーロ円	119.32	120.00		

**SHARP**

15

- ・ 次のスライドは、2020年度の業績予想数値です。
- ・ 売上高は 前年度比 3.5%増の 2兆3,500億円、  
営業利益は 55.4%増の 820億円、  
経常利益は 26.0%増の 700億円、  
親会社株主に帰属する当期純利益は 2.4倍の 500億円としております。
- ・ また、新型コロナウイルスによる年間の影響は、  
売上高で約960億円、営業利益で約280億円と見ております。
- ・ なお、2020年度の想定為替レートは、  
1ドル105円、1ユーロ120円としております。



# 2020年度の位置づけ

2020年度は、事業環境変化への対応と次期中期経営計画に向けた基盤固めに注力



SHARP

16

・ 次のスライドは、2020年度の位置づけです。

・ 事業環境が大きく変化したため、ご覧のように2020年度を次期中期経営計画への準備・移行期間と位置付けました。

今後とも、8K+5GやAIoTを軸に、さまざまな製品・デバイスを創出するとともに、サービス・ソリューション事業の強化、グローバル5極体制の構築に取り組み、あわせて財務体質の改善を図るという方向性に変わりはありません。

新たな事業推進体制のもと、「事業環境の変化への対応」、「将来の成長に向けた種蒔き」、「積み残した課題の早期解決」に取り組んでまいります。

・ 中期経営計画は、新型コロナウイルスの動向などを見極めた上で、2021年度が始まるまでに、2021年度から2023年度までの3か年の計画として公表させていただく予定にしております。

# 2020年度の主な取り組み

## ■ 新しい生活様式が求められるなど、事業環境が大きく変化

## ■ シャープのデバイス・技術などリソースを活用して、事業環境の変化に対応

### (1) 白物家電・テレビ

巣ごもり需要に対し、ホットクックやヘルシオデリ、高付加価値テレビなどに注力。健康意識の高まりにあわせ、プラズマクラスター搭載製品を積極的に訴求。

### (2) パソコン

テレワークの拡大や業務のIT化、GIGAスクール構想など国内外の教育ICT化に伴う需要を取りこむ。

### (3) 通信

下期以降、5Gサービス対応スマホや、ルーター・タブレットが伸長。

### (4) ビジネスソリューション

厳しい状況が続くものの、オフィス需要は緩やかに回復していく見込み。テレワーク需要などに向け、COCORO OFFICEや無人化ソリューションなどを展開。

### (5) ディ스플레이

テレワークや教育ICT化の進展に伴う需要を取りこむことで、タブレットやPC向けの中型パネル、大型タッチディスプレイ向けパネルなどが伸長。

### (6) COCORO STOREなどメンバーシップビジネスも強化していく。

**SHARP**

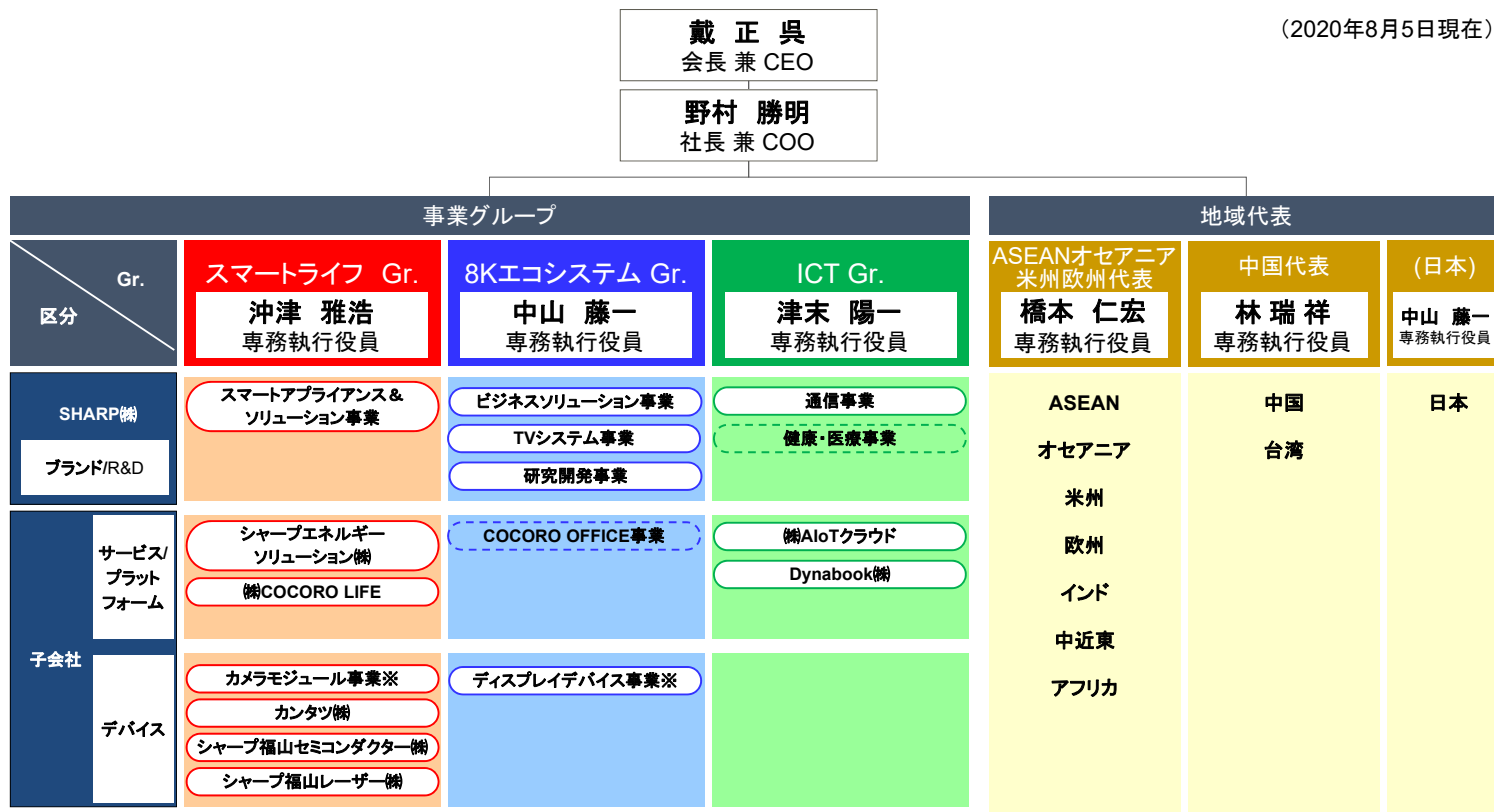
17

- ・ 次のスライドは、2020年度の主な取り組みです。
- ・ 新型コロナウイルスの流行により、新しい生活様式が求められるなど事業環境には大きな変化がありました。
- ・ 当社では、保有するリソースを活用し、こうした生活様式の変化に貢献するとともにビジネスチャンスでもあると捉え、事業に取り組んでまいります。
- ・ 例えば、巣ごもり需要に対し、ホットクックやヘルシオデリ、8K/4Kなどの高付加価値テレビの展開を強化するとともに、健康意識の高まりにあわせ、プラズマクラスター搭載商品を積極的に訴求していきます。このほか、テレワークの拡大や業務のIT化、GIGAスクール構想を始めとする国内外の教育ICT化に向け、PCやタブレット、大型タッチディスプレイなどをタイムリーに提供していきます。さらに、こうした変化に伴うディスプレイへの需要も、着実に取りこんでまいります。なお、ビジネスソリューションにつきましては、厳しい状況が続くと見ておりますが、需要は緩やかに回復していく見込みです。また、COCORO OFFICEや無人化ソリューションの展開などにも注力してまいります。

# 事業推進体制

新たな事業推進体制の下、  
“One SHARP”の総合力を高め、強いブランド企業“SHARP”の確立を目指す

(2020年8月5日現在)



※ 2020年度中に分社化予定

**SHARP**

18

- ・ 次のスライドをご覧ください。  
最後に当社の事業推進体制をご説明させていただきます。
- ・ 前回の決算発表時に公表させていただきました通り、株主総会を行った6月29日付で役員体制を変更いたしました。今後、CEO-COO 体制の下、会長の戴が海外、私が国内を中心に事業拡大に取り組んでまいります。

また、執行体制についても見直しを行っております。  
事業軸では、専務の沖津が「スマートライフグループ長」、専務の中山が「8K エコシステムグループ長」、専務の津末が「ICT グループ長」を担い、  
地域軸では、専務の橋本が「ASEAN・オセアニア・米州・欧州代表」、専務の林(リン)が「中国代表」を担う体制にしております。

戴と私が全社戦略の構築を担い、  
5人の専務が事業及び地域戦略の構築に特化することで、  
One SHARP の総合力をより一層高めてまいります。

## Ⅲ. 補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 2020年度に入っても、新型コロナウイルスの流行や米中貿易摩擦は継続しておりますが、業績は回復基調であり、最終損益を黒字化することもできました。

2020年度は、環境の変化に対応したTransitionを進め、2021年度からのRealizationにつなげるとともに業績の回復、財務体質の改善、株主価値の向上に取り組んでまいります。

- ・ そして、ニューノーマル時代においても、業績を残しつつ、しっかりと社会に貢献していける、そのような企業を目指してまいります。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

## 連結業績概要

(単位:十億円)

	2019年度			2020年度
	上期	下期	通期	通期予想
売上高	1,120.6	1,150.5	2,271.2	2,350.0
営業利益	36.9	15.8	52.7	82.0
(利益率)	(3.3%)	(1.4%)	(2.3%)	(3.5%)
経常利益	33.1	22.4	55.5	70.0
(利益率)	(3.0%)	(1.9%)	(2.4%)	(3.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	27.3	-6.4	20.9	50.0
(利益率)	(2.4%)	(-0.6%)	(0.9%)	(2.1%)

SHARP

20

## 四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2019年度				2020年度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
売上高	514.9	605.6	634.9	515.6	517.2
営業利益	14.6	22.3	29.4	-13.6	9.0
(利益率)	(2.8%)	(3.7%)	(4.6%)	(-2.6%)	(1.8%)
経常利益	13.9	19.1	31.0	-8.5	7.7
(利益率)	(2.7%)	(3.2%)	(4.9%)	(-1.7%)	(1.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12.5	14.8	25.0	-31.4	7.9
(利益率)	(2.4%)	(2.5%)	(3.9%)	(-6.1%)	(1.5%)

SHARP

21

# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2019年度		
	上期	下期	通期
スマートライフ	415.0	441.5	856.5
8Kエコシステム	574.4	582.8	1,157.2
ICT	179.3	177.8	357.2
小計	1,168.8	1,202.2	2,371.0
調整額	-48.1	-51.6	-99.8
合計	1,120.6	1,150.5	2,271.2

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2019年度		
	上期	下期	通期
スマートライフ	18.6 (4.5%)	21.1 (4.8%)	39.8 (4.6%)
8Kエコシステム	17.6 (3.1%)	-2.6 (-0.5%)	14.9 (1.3%)
ICT	11.0 (6.2%)	9.0 (5.1%)	20.1 (5.6%)
小計	47.3 (4.1%)	27.5 (2.3%)	74.9 (3.2%)
調整額	-10.4	-11.7	-22.1
合計	36.9 (3.3%)	15.8 (1.4%)	52.7 (2.3%)

※()内の数字は営業利益率です。

## 四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2019年度				2020年度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
スマートライフ	181.0	233.9	247.6	193.9	184.5
8Kエコシステム	262.5	311.8	324.3	258.4	267.1
ICT	96.2	83.1	88.3	89.4	88.3
小計	539.8	628.9	660.3	541.8	539.9
調整額	-24.8	-23.3	-25.4	-26.1	-22.7
合計	514.9	605.6	634.9	515.6	517.2

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2019年度				2020年度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
スマートライフ	6.2 (3.5%)	12.3 (5.3%)	16.4 (6.7%)	4.6 (2.4%)	13.4 (7.3%)
8Kエコシステム	6.5 (2.5%)	11.0 (3.5%)	11.7 (3.6%)	-14.4 (-5.6%)	-4.9 (-1.9%)
ICT	7.3 (7.6%)	3.7 (4.5%)	4.4 (5.1%)	4.5 (5.1%)	4.4 (5.0%)
小計	20.1 (3.7%)	27.2 (4.3%)	32.7 (5.0%)	-5.1 (-1.0%)	12.9 (2.4%)
調整額	-5.5	-4.8	-3.2	-8.4	-3.8
合計	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	29.4 (4.6%)	-13.6 (-2.6%)	9.0 (1.8%)

※()内の数字は営業利益率です。

## 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2019年度			2020年度
	上期	下期	通期	通期予想
設備投資	29.3	30.8	60.2	100.0
内:ディスプレイ	10.2	9.1	19.4	25.0
減価償却費	30.8	36.2	67.1	70.0
研究開発費	49.9	50.6	100.5	105.0

(単位:円)

平均為替レート	2019年度			2020年度
	上期	下期	通期	通期予想
米ドル	107.63	107.85	107.74	105.00
ユーロ	119.91	118.72	119.32	120.00

## 四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2019年度				2020年度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
設備投資	9.0	20.2	23.8	6.9	10.3
内:ディスプレイ	3.6	6.6	5.5	3.6	4.4
減価償却費	14.9	15.9	18.0	18.1	15.5
研究開発費	28.9	21.0	24.9	25.6	20.3

(単位:円)

平均為替レート	2019年度				2020年度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
米ドル	108.90	106.35	107.76	107.94	106.62
ユーロ	121.99	117.84	118.82	118.62	116.97



# SHARP

Be Original.

